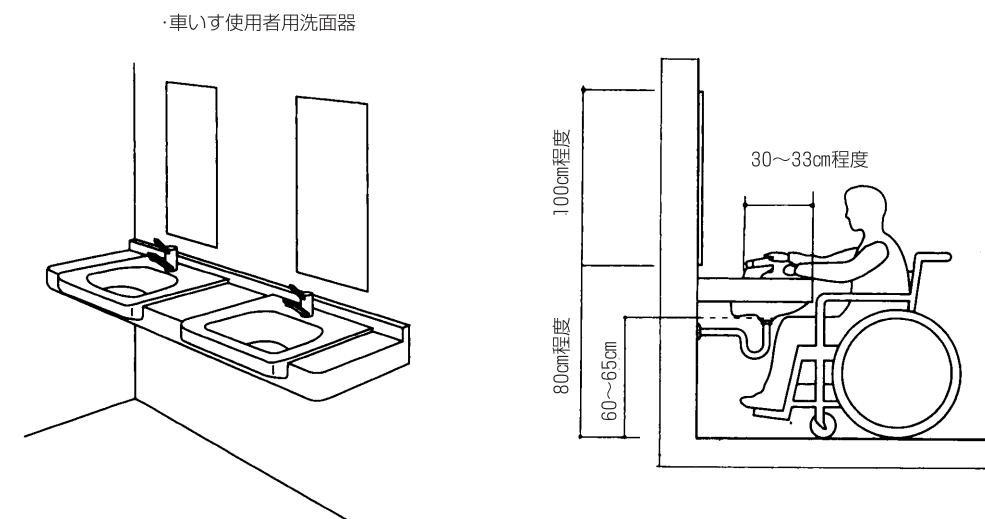


12 共同洗面所

■基本的な考え方■

便所内とは別に独立した共同洗面所を設ける場合、車いす利用者だけでなく、だれでも円滑に利用できるように整備する必要がある。

洗面器の整備例（図1）



整備基準	目標となる指針
------	---------

12 共同洗面所 共同洗面所を設ける場合（便所の内部に設ける場合を除く。）においては、車いす利用者が円滑に利用することができるよう十分な床面積が確保され、かつ、洗面器、手すりその他の設備が適切に配置されている洗面所を1以上（男子用及び女子用の区分があるときは、それぞれ1以上）設けること。	12 共同洗面所 不特定かつ多数の者が利用する共同洗面所（便所の内部に設けるものを除く。）を設ける階においては、車いす利用者が円滑に利用することができるよう十分な床面積が確保され、かつ、洗面器、手すり等が適切に配置されている洗面所を1以上（男子用及び女子用の区分があるときは、それぞれ1以上）設けること。
--	--

整備基準の解説

- 整備の対象
共同洗面所を設ける場合には、一以上の洗面所を車いす利用者が利用できる構造とする。
- 共同洗面所の出入口の内のり幅90cmは、車いすで通過しやすい寸法。

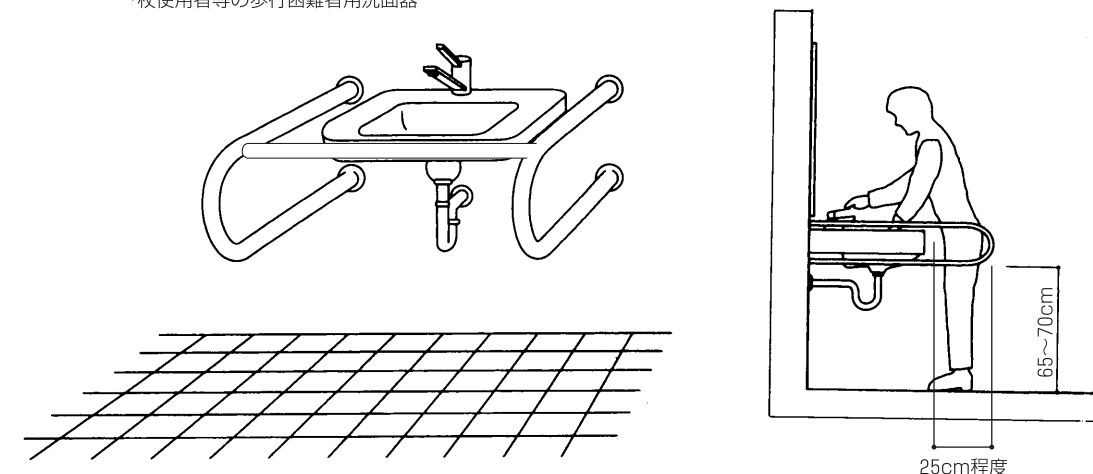
目標となる指針の解説

- 整備の対象
不特定かつ多数の者が利用する共同洗面所を設ける階の一以上の洗面所を車いす利用者が利用できる構造とする。
- 共同洗面所の出入口の内のり幅90cmは、車いすで通過しやすい寸法。

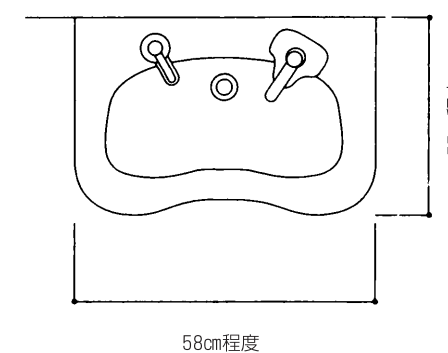
配慮事項

項 目	解 説
洗面器	<ul style="list-style-type: none">○車いす利用者が利用する洗面器の前面には車いすの転回(180° 方向転換)に必要なスペース(幅1.4m程度)を確保する。○車いす利用者が利用する洗面器の下部の空間は、高さ60～65cm程度確保し、奥行き40～55cm程度とする。 ⇨図1 参照○車いすのフットレストの当たりにくい、トラップの突き出しの少ない形式とする。○吐水口の位置は、車いす利用者が利用しやすい位置(手前縁から30～33cm程度)に設ける。○洗面器の前縁は、緩やかな凹部とする。 ⇨図2 参照○水栓器具は、レバー式、光感知式等操作が容易なものとする。 ⇨図3 参照○冷温水の区分等を点字で表示する。○車いす使用者と歩行困難者に配慮したものを分けて2か所以上設ける。○車いす利用者が利用する鏡は、床上80cm程度から上方へ100cm程度の高さに取り付けるか、可動式の傾斜式鏡とする。 ⇨図1 参照
手すり	<ul style="list-style-type: none">○寄り掛かれるように手すり又は左右にカウンターを設ける。

・杖使用者等の歩行困難者用洗面器



洗面器の寸法（図2）



水栓器具の例（図3）

